

## 耐久性の高い森林作業道研修会の開催について ～馬淵川上流流域森林・林業活性化センター～

### 1 はじめに

低コスト林業の確立のためには、路網の整備や高性能林業機械を活用し、集約化した間伐施業などが求められています。馬淵川上流流域森林・林業活性化センター(会長 阿部 正弘 二戸農林振興センター林務室長。以下「センター」という。)では、集約化施業に資する耐久性の高い森林作業道の作設方法を学ぶ研修会を開催しました。

### 2 森林作業道の定義づけ

平成21年に公表された「森林・林業再生プラン」、さらには、その具体的な施策を検討するため設置された「路網・作業システム検討委員会」での論議を踏まえ、国では、平成22年に森林作業道作設指針を制定し、「森林作業道」については、地形に沿うことで作設費用を抑えて経済性を確保しつつ、繰り返しの使用に耐えるよう丈夫で簡易なものとする事とされました。このため、これまで一時的な利用とされていた作業路などとは明らかに目的が異なるものとなり、耐久性をいかに確保していくかが重要となっています。

### 3 森林作業道研修会の開催

本県でも、森林作業道作設の技術向上を図るため、オペレーター研修に取り組んできましたが、切土高が1.5mを超えるものや盛土の締固めが不十分なものなど崩壊を誘引する施工が散見されます。このため、



【開会式の様子】

センターでは、県の上級指導者でもある西間 薫氏(岩泉町:西間林業)を講師に招き、平成28年9月28日に二戸市浄法寺町内の国有林地内で関係者36名の参加の下、「耐久性の高い作業道研修会」を開催しました。

### 4 研修内容

西間氏には、間伐施行地の森林作業道からの支線開設のための取付けと表土積ブロック工法による作設を実演いただきました。

盛土にあたっては、概ね30cm程度の層ごとにバックホーのヘッドさらには、履帯での締固めを念入りに行い、堅固な路体に仕上げました。参加者は、西間氏の機械操作と丁寧な施工に感心の様子でした。氏からは、日当たり50mの施工が限度であり、これ以上の作設延長になると、締固めが不十分になる。しかし、災害に強くなるため、結果的には、低コストな林業に資するとの解説がありました。



【締固めの実演】



【西間氏による解説】

### 5 おわりに

二戸農林振興センター管内では、平成28年度に森林作業道10,000mの作設が計画されていますので、本研修の成果を活かし、耐久性のある道づくりの取組を支援していきます。